

空知信用金庫・第148回地域企業景気動向調査

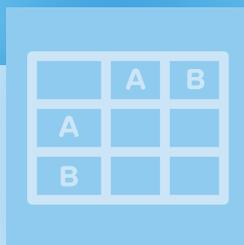
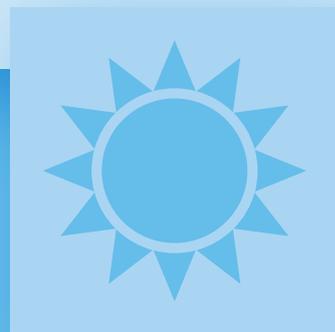
景況レポート

2023.7

このレポートは、空知信用金庫が岩見沢・美唄・三笠・栗山・由仁・長沼・南幌・江別に所在の地元企業のご協力により、令和5年4月～6月の景気の現状と令和5年7月～9月の見通しを調査したものです。

令和5年7月末日

空知信用金庫・地域支援部
岩見沢市3条西6丁目2番地1
電話(0126)22-1171



第148回 地域企業景気動向調査要項

1. 調査地域

若見沢市・美唄市・三笠市・江別市・栗山町・長沼町・南幌町・由仁町

2. 調査対象期間

令和5年4月～令和5年6月期（実績） 令和5年7月～令和5年9月期（予想）
令和5年6月1日～6月7日に実施

3. 調査の方法

面接・聞き取りによる調査

標本（調査対象企業）の抽出法としては、標本の業種・規模等の基本属性が、母集団（当金庫融資取引先）の属性に見合う基準にもとづく、有意抽出法によるもの。

4. 業況判断指数

D・I値による判断

D・Iとは？ Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略
企業の業況判断等を指数化したものであり、景気動向の方向性を示したものの。
D・Iが高ければ好景気、低ければ不景気であると判断できます。

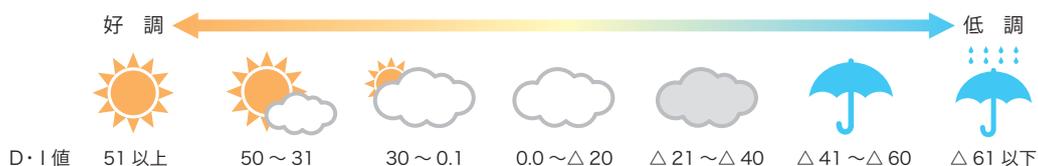
D・I値 = 「増加・やや増加・上昇の割合」 - 「減少・やや減少・下降の割合」

5. 調査対象企業数・有効回答数の内訳

区分	調査対象企業	有効回答数	有効回答率(%)
製造業	24	23	96
卸売業	14	14	100
小売業	57	55	96
サービス業	32	30	94
建設業	43	43	100
不動産業	7	7	100
運輸業	17	17	100
農業	28	27	96
計	222	216	97

6. 天気図の見方

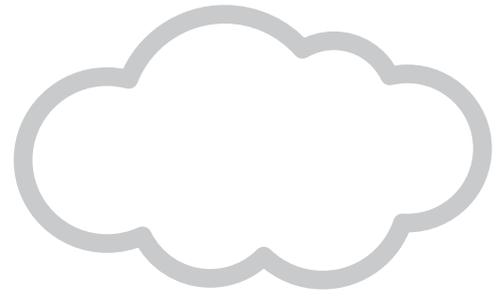
景気指標を総合的に判断して作成



7. 特別調査

「アフターコロナと中小企業」について

総 合



概 況

指標はやや改善 今後の経済動向に注視

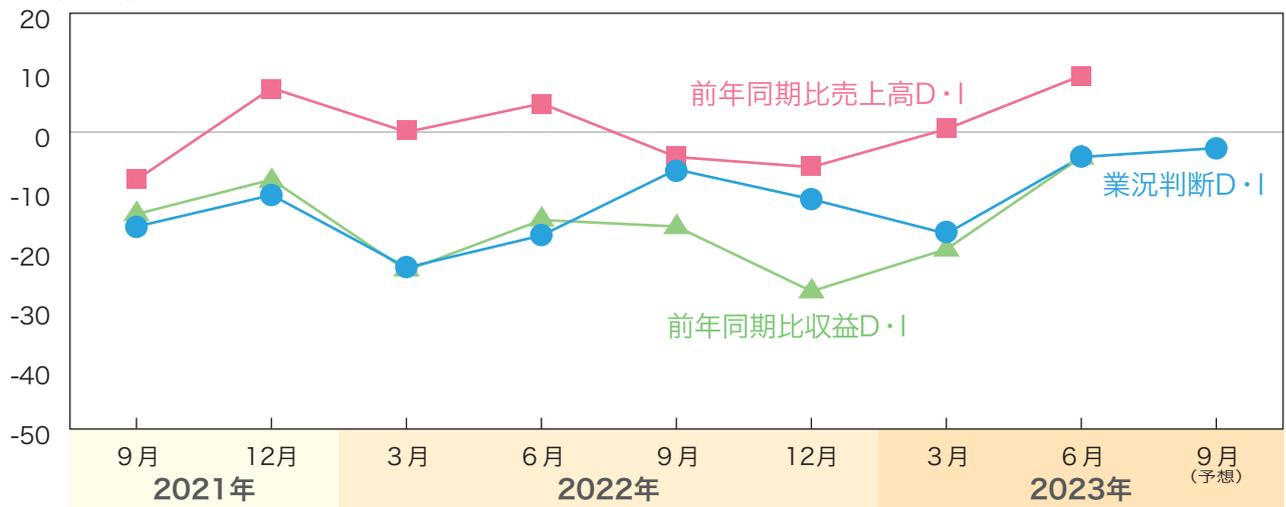
今期の業況判断指数(D・I値)は、△4.2と前期(1月～3月)より12.9ポイント改善しました。マイナス圏内は14期連続となりましたが、マイナスを脱するまでもう一歩のところまで来ています。業種別に見ますと運輸業のみ悪化し、残り7業種は改善あるいは横這いとなりました。売上高D・Iは9.5と前期比9ポイント改善しましたが、業種間でバラツキが見られ、卸売業と不動産業では10ポイント以上悪化しました。収益D・Iは△4.2と前期比15.5ポイント改善し、不動産業のみが悪化となりました。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△17.4	△17.1	△4.2	△2.7
売上高D・I	4.8	0.5	9.5	—
収益D・I	△14.8	△19.7	△4.2	—

来期の見通しについて

来期の予想業況判断指数(D・I値)は△2.7と今期実績比1.5ポイントと小幅ではあるものの改善が見込まれます。業種別では、製造業とサービス業及び不動産業の3業種で悪化の見通しですがその他の業種は改善あるいは横這い見通しです。明るい兆しはあるものの、引き続き人手不足や燃料価格の高止まりに下振れリスクが懸念されます。

主要指標の推移



前期比D・Iの推移

○販売価格D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	26.1	17.4	34.8	21.8
卸 売	50.0	50.0	42.9	28.6
小 売	40.0	31.4	43.7	21.8
サービス	30.0	10.0	36.7	23.4
建 設	34.9	30.2	39.6	32.6
不 動 産	0.0	0.0	28.6	—
運 輸	△5.9	23.5	29.4	29.4
農 業	11.1	7.4	14.8	25.9

※サービス業は料金価格、建設業は請負価格、運輸業は料金単価、農業は販売単価。

○仕入価格D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	73.9	43.5	65.2	47.8
卸 売	64.3	57.1	42.9	21.5
小 売	52.7	53.7	54.6	36.4
サービス	66.7	50.0	60.0	50.0
建 設	74.4	58.1	69.8	46.5
不 動 産	28.6	28.6	28.6	28.6
運 輸	58.8	52.9	58.8	52.9
農 業	66.7	66.7	74.1	63.0

※製造業は原材料価格、サービス業・建設業は材料価格、運輸業は燃料価格、農業は生産資材等価格。

○人手過不足D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	△21.7	△17.4	△30.4	△30.4
卸 売	△35.7	△35.7	△28.6	△28.6
小 売	△16.4	△14.8	△20.0	△23.6
サービス	△40.0	△40.0	△53.3	△50.0
建 設	△41.9	△34.9	△53.5	△53.5
不動産	0.0	△14.3	△14.3	△14.3
運 輸	△52.9	△58.8	△58.8	△52.9
農 業	-	-	-	-

○残業時間D・I

	前年同期	前 期	今 期	見通し
製 造	△4.3	△4.4	8.7	0.0
卸 売	-	-	△7.1	△7.1
小 売	△9.1	△3.7	△5.5	△5.5
サービス	13.4	6.7	13.3	6.7
建 設	2.3	△9.3	△4.6	△4.6
不動産	-	-	-	-
運 輸	△11.8	△11.8	△17.6	△11.8
農 業	-	-	-	-

○借入金の動き・難易度

(%)

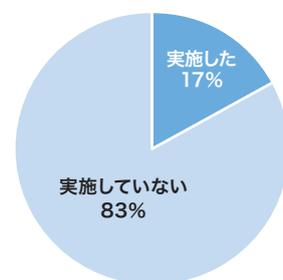
	借入金の実施	借入金の予定	民間金融機関からの借入難易度			
	し た	あ る	容 易	変わらない	難 しい	該 当 な し
製 造	8.7	4.3	13.0	65.2	8.7	13.1
卸 売	14.3	14.3	7.1	92.9	-	-
小 売	16.4	9.1	5.5	60.0	14.5	20.0
サービス	20.0	20.0	10.0	83.3	-	6.7
建 設	11.6	16.3	23.3	62.8	7.0	3.9
不動産	-	14.3	-	71.4	-	28.6
運 輸	29.4	17.6	17.6	58.8	17.6	6.0

○設備投資の動き

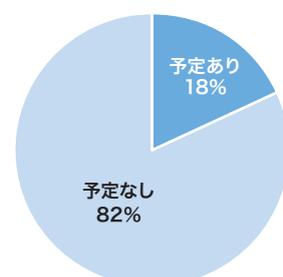
(%)

	前年同期	前 期	今 期	実施予定
製 造	13.0	4.3	13.0	8.7
卸 売	21.4	21.4	14.3	28.6
小 売	12.7	7.4	10.9	7.3
サービス	23.3	10.0	16.7	26.7
建 設	23.3	16.3	25.6	27.9
不動産	-	-	-	-
運 輸	35.3	17.6	23.5	17.6
農 業	11.1	-	18.5	11.1

2023年4月～6月期
設 備 投 資

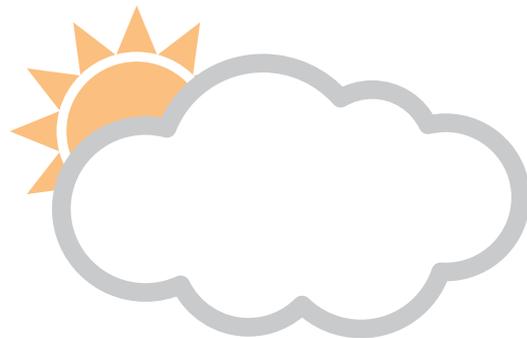


今後3ヶ月以内
設 備 投 資 計 画





製造業



概況

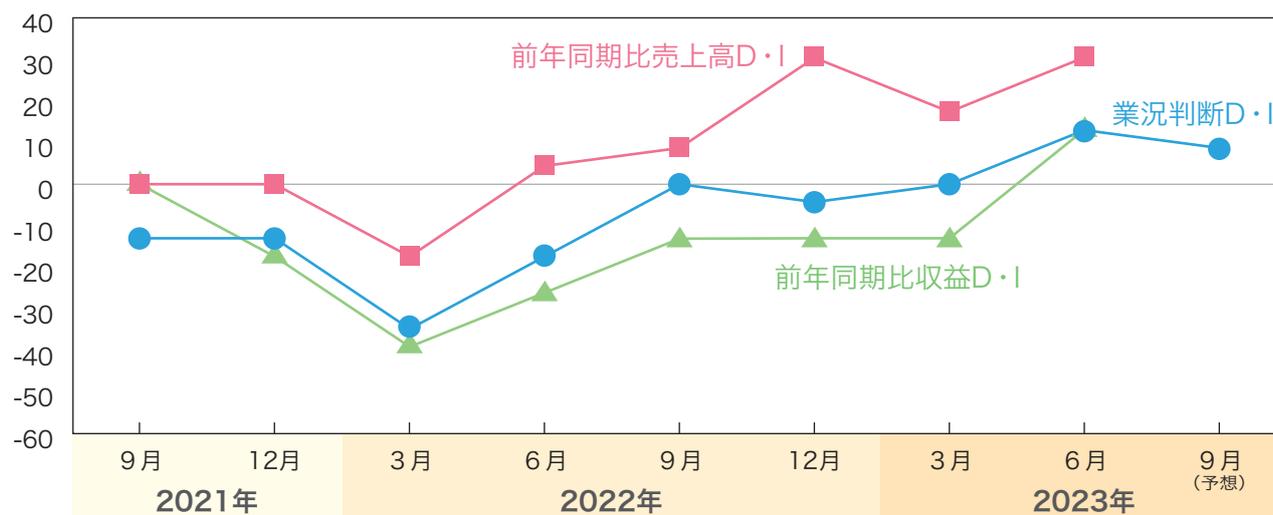
今期の業況判断指数(D・I値)は、13.0と前期(1月～3月)に比べ13.0ポイント改善しました。食品製造業と窯業土木製品製造業で改善しましたが、出版印刷・金属製品製造業では下降となりました。売上D・I値も30.5ポイントとなり前期比13.1ポイント改善しました。業況D・I値と同じく、特に食品製造業と窯業土木製品製造業で改善しました。収益D・I値も13.1ポイントと大きく改善し、マイナス圏から脱しました。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△17.4	0.0	13.0	8.7
売上高D・I	4.4	17.4	30.5	-
収益D・I	△26.1	△13.0	13.1	-

来期の見通しについて

食品製造業で改善の見通しですが、他の業種では現状維持あるいはやや下降の予想見込みで、製造業全体で業況は今期実績とほぼ変わらない見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント (聞き取りを含む) の一部

- ・受注量については回復傾向にあり、小口受注については断っているケースもある。
- ・人材不足が課題であり、人材を確保する為に創意工夫が必要。
- ・販売先との交渉により値上げを図っているものの、それ以上に仕入・燃料価格の上昇に苦慮している。

経営上の問題点トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	原材料高	52.2%	原材料高	60.9%
第2位	人手不足 売上の停滞・減少	30.4%	人手不足	34.8%
第3位	工場・機械の狭小・老朽化 仕入先からの値上げ要請	26.1%	売上の停滞・減少	26.1%

(複数回答)

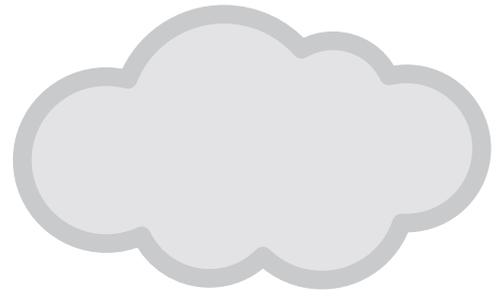
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	経費を節減する	60.9%	販路を広げる	52.2%
第2位	人材を確保する	39.1%	人材を確保する	47.8%
第3位	販路を広げる	34.8%	経費を節減する	43.5%

(複数回答)



卸売業



概況

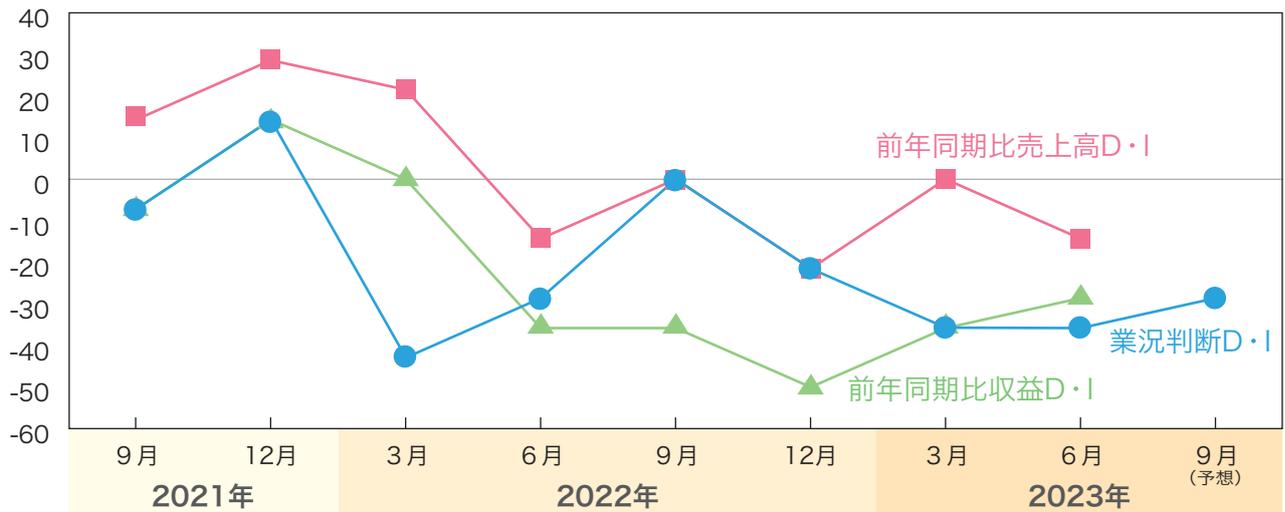
今期の業況判断指数（D・I値）は、△35.8と前期（1月～3月）とほぼ変わらない低調な業況となりました。食料・飲料卸売業では改善しましたが、車両部品卸売等では業況が悪化し、卸売業全体では前期と横這いとなりました。売上D・I値は14.3ポイント悪化しました。その他（車両部品や電材等）の卸売業で悪化していることが主因です。収益D・I値は7.2ポイント改善されましたが、諸経費の負担の重さが継続しており、全体では低調な業況となりました。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△28.6	△35.7	△35.8	△28.6
売上高D・I	△14.3	0.0	△14.3	—
収益D・I	△35.8	△35.8	△28.6	—

来期の見通しについて

来期も今期並みの水準を見通しており、低調な業況が継続される見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・ 2期連続夏季ボーナス支給せず、今年は他の経費を削減し、少額ではあるがボーナス支給を考えている。
- ・ 卵不足の中、仕入確保に苦慮している。
- ・ 仕入価格の上昇を売上にすべて転嫁できるように努力中である。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	売上の停滞・減少 50.0%	同業者間の競争の激化 42.9%
第2位	人手不足 仕入先からの値上げ要請 35.7%	売上の停滞・減少 35.7%
第3位	取引先の減少 流通経路の変化による競争の激化 21.4%	人件費の増加 取引先の減少 利幅の縮小 21.4%

(複数回答)

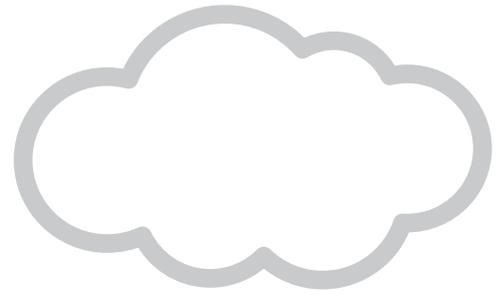
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	人材を確保する 57.1%	経費を節減する 71.4%
第2位	販路を広げる 50.0%	販路を広げる 50.0%
第3位	経費を節減する 35.7%	人材を確保する 28.6%

(複数回答)



小売業



概況

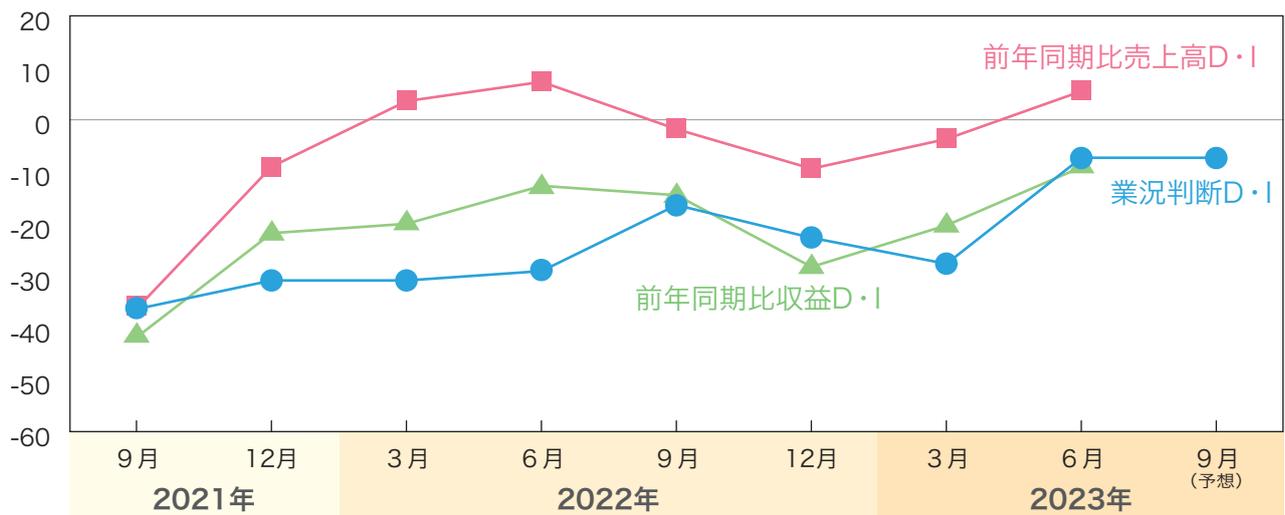
今期の業況判断指数（D・I値）は、△7.3と前期（1月～3月）に比べ20.4ポイント改善しました。家庭用機械・電気器具小売業で下降した以外、改善あるいは前期並みの業況となりました。売上D・I値及び収益D・I値ともに、新型コロナの5類への移行に伴う消費拡大の影響により、食料品や飲食店は大幅に好転し、小売業全体の押し上げ要因となりました。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△29.1	△27.7	△7.3	△7.3
売上高D・I	7.3	△3.7	5.5	—
収益D・I	△12.7	△20.3	△9.1	—

来期の見通しについて

食料品小売や飲食店、その他の小売業で改善、燃料や家具の小売業では悪化が見込まれますが、小売業全体では今期実績と変わらない見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・商品仕入先からの値上げ交渉があり、価格転嫁は勿論、経費削減も意識している。
- ・原材料価格上昇に加えて卵不足にも苦慮。商品の販売個数制限にて対応中。
- ・道外の物産展や商談会へ参加する回数が増えてきた。

経営上の問題点トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	商圏人口の減少	58.2%	商圏人口の減少	56.4%
第2位	売上の停滞・減少	45.5%	売上の停滞・減少	41.8%
第3位	利幅の縮小	20.0%	人手不足	20.0%

(複数回答)

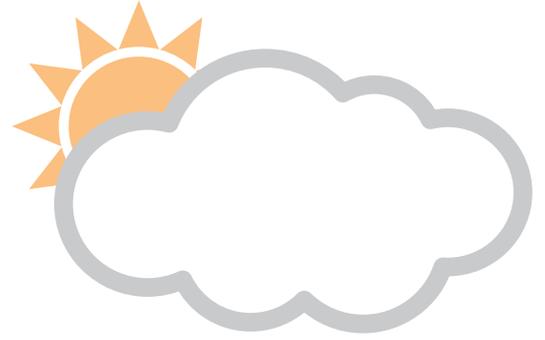
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	経費を節減する	56.4%	経費を節減する	52.7%
第2位	人材を確保する 売れ筋商品を取扱う	25.5%	売れ筋商品を取扱う	25.5%
第3位	品揃えを改善する	21.8%	人材を確保する	23.6%

(複数回答)



サービス業



概況

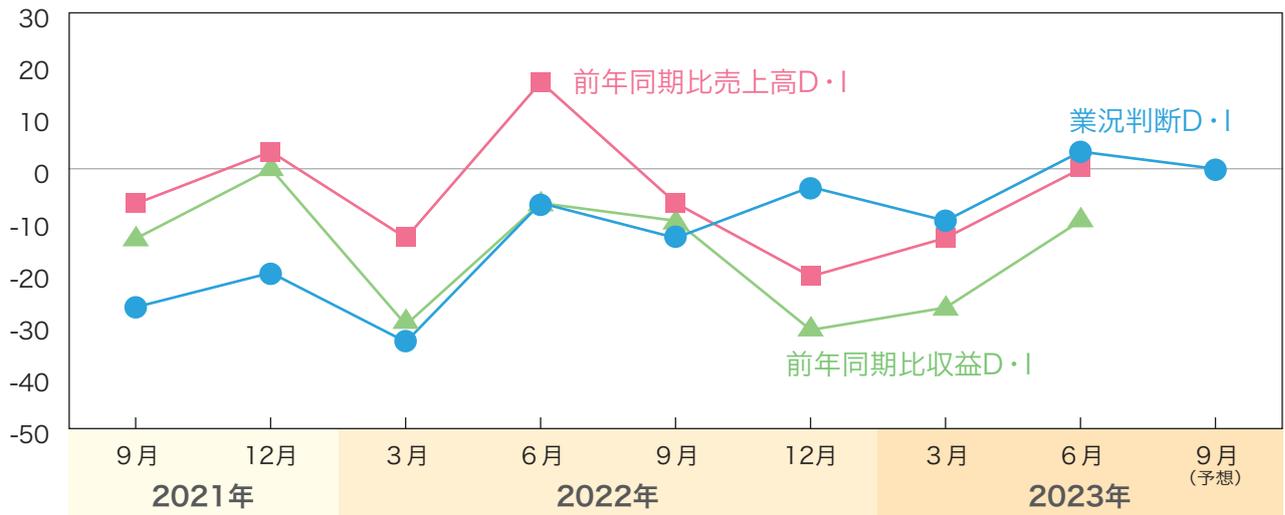
今期の業況判断指数(D・I値)は、3.3と前期(1月~3月)に比べ13.3ポイント改善しました。特に業種別では洗濯・理美容業で業況は上向きとなりました。売上D・I値も設計測量や写真スタジオ等その他サービス業において改善し、前期比で13.3ポイントプラスとなりました。収益D・I値も同じくその他サービス業で大きく改善し、全体で前期比16.7ポイントのプラスとなりました。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△6.6	△10.0	3.3	0.0
売上高D・I	16.7	△13.3	0.0	-
収益D・I	△6.6	△26.7	△10.0	-

来期の見通しについて

洗濯・理容・浴場業で下降を見込んでいますが、自動車整備業及びその他のサービス業で改善する見通しで、全体では今期とほぼ変わらないと見込んでいます。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント(聞き取りを含む)の一部

- ・今年選挙により受注件数が増加となった。(看板製作)
- ・工事受注後に仕入れ、代金回収を行っているため、仕入価格上昇分については販売価格へ概ね転嫁できている。
- ・前年に比べてコロナ5類移行の影響もあり、折込チラシが増加している。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	売上の停滞・減少 人手不足 材料価格の上昇 36.7%	人手不足 50.0%
第2位	商圏人口の減小 30.0%	材料価格の上昇 40.0%
第3位	人件費の増加 23.3%	商圏人口の減小 人件費の増加 26.7%

(複数回答)

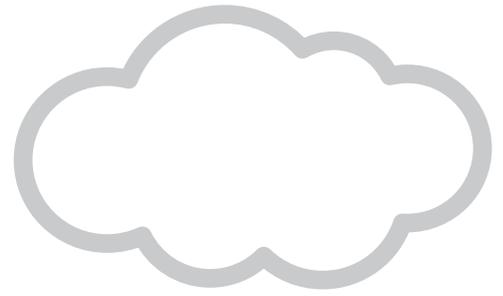
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	経費を節減する 53.3%	経費を節減する 46.7%
第2位	販路を広げる 36.7%	人材を確保する 販路を広げる 43.3%
第3位	人材を確保する 30.0%	技術力を強化する 機械化を推進する 16.7%

(複数回答)



建設業



概況

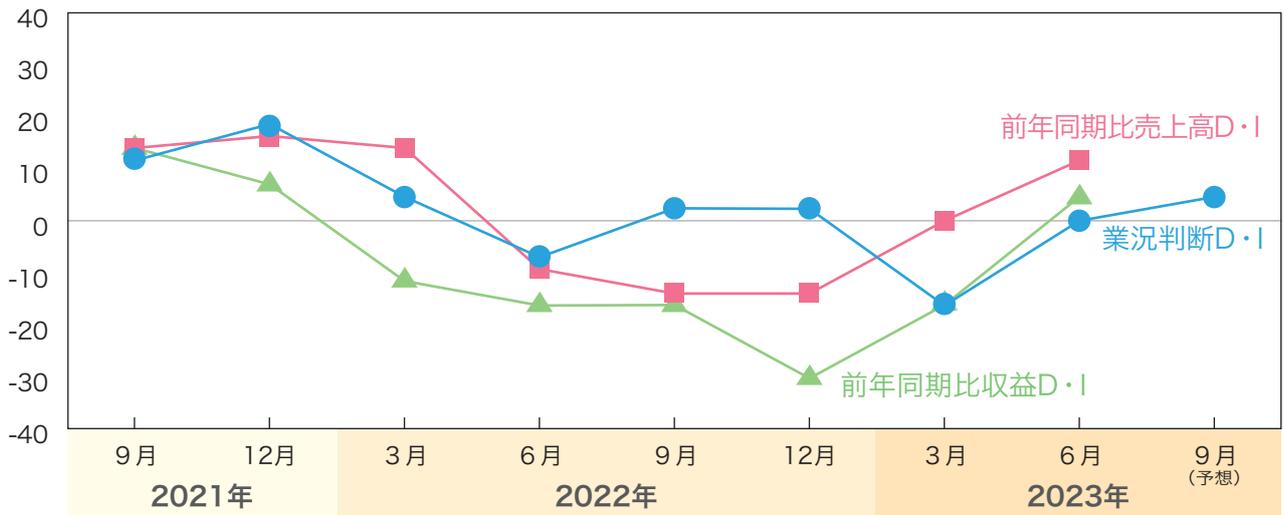
今期の業況判断指数(D・I値)は、管工事や電気設備工事業で前期よりも悪化しましたが、総合工事や土木工事業で改善し、全体で今期は0.0と前期(1月~3月)から16.3ポイント改善しました。売上高D・I値で前期比11.6ポイントの改善をしており、仕入価格の上昇分に対する価格転嫁の動きが見えます。また、収益D・I値も前期比で20.8ポイント改善し、仕入価格の上昇分を売上価格に転嫁し、収益性の向上につながっているものと推察されます。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△7.0	△16.3	0.0	4.6
売上高D・I	△9.3	0.0	11.6	-
収益D・I	△16.3	△16.2	4.6	-

来期の見通しについて

設備工事業で大きく下降を予想しているものの、総合工事業と職別工事業で改善する見込みから、今期実績よりもわずかながら業況は改善する見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント (聞き取りを含む) の一部

- ・公共工事の減少に苦戦している。
- ・仕入価格上昇しており、収支は悪化している。
- ・大型民間工事の受注により、安定推移の見通し。

経営上の問題点トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	材料価格の上昇	67.4%	材料価格の上昇	65.1%
第2位	人手不足	58.1%	人手不足	53.5%
第3位	同業者間の競争の激化	23.3%	売上の停滞・減少 同業者間の競争の激化	18.6%

(複数回答)

当面の重点経営施策トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	経費を節減する	60.5%	人材を確保する	51.2%
第2位	人材を確保する	55.8%	経費を節減する	48.8%
第3位	技術力を強化する	34.9%	技術力を強化する	37.2%

(複数回答)



不動産業



概況

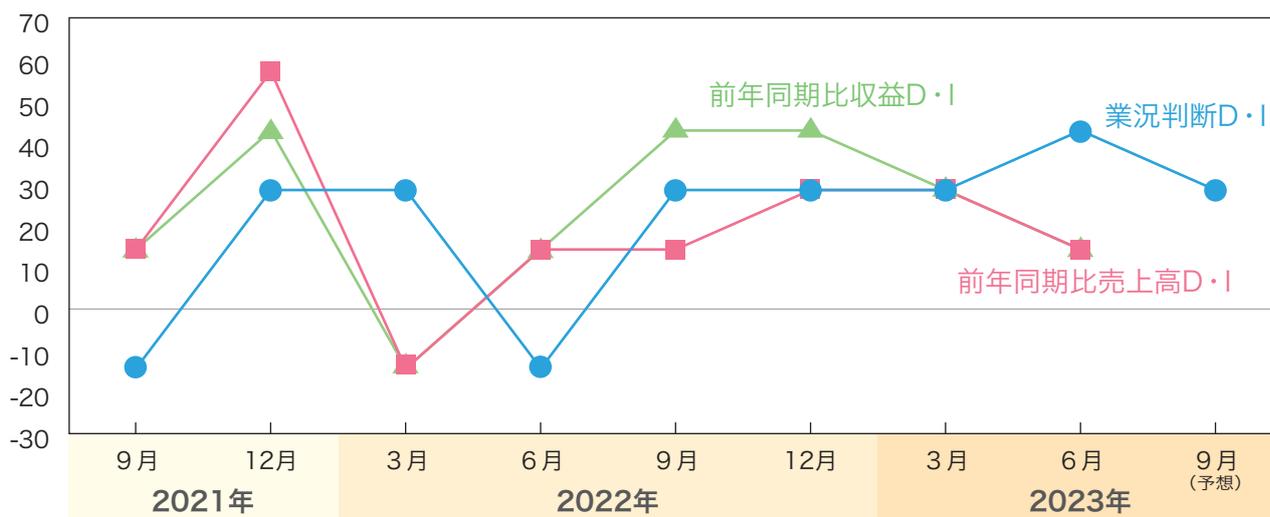
今期の業況判断指数(D・I値)は、42.9と前期(1月~3月)よりも14.3ポイント改善しました。特に不動産代理業・仲介業において前期比好調でした。売上高D・I値、収益D・I値ともに14.3と前期比△14.3ポイントとなり、仕入価格(不動産価格)の高騰が売上・収益ともに縮小しているものと推察されます。

	前年同期	前 期	今 期	見 通 し
業況D・I	△14.3	28.6	42.9	28.6
売上高D・I	14.3	28.6	14.3	-
収益D・I	14.3	28.6	14.3	-

来期の見通しについて

貸事務所・土地賃貸業及び貸家・貸間業では現状維持、不動産代理・仲介業では今期を若干下回る見込みで、不動産業全体では前期並みの業況となる見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント(聞き取りを含む)の一部

- ・物価高やエネルギー価格の上昇が厳しい。
- ・転居等、人の動きが戻りつつある。

経営上の問題点トップ3

	前年同期	今 期
第1位	商品物件の縮小 同業者間の競争の激化 42.9%	同業者間の競争の激化 57.1%
第2位	商品物件の縮小 同業者間の競争の激化 42.9%	商品物件の縮小 人件費以外の経費の増加 42.9%
第3位	商品物件の高騰 売上の停滞・減少 28.6%	商品物件の高騰 28.6%

(複数回答)

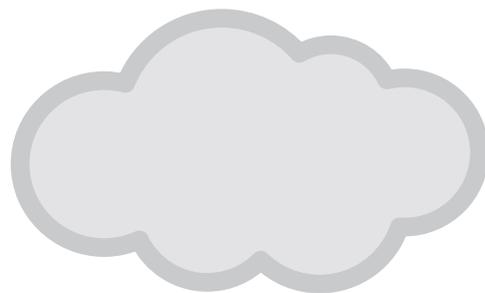
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期	今 期
第1位	経費を節減する 71.4%	経費を節減する 71.4%
第2位	販路を広げる 57.1%	宣伝・広告を強化する 57.1%
第3位	宣伝・広告を強化する 42.9%	不動産の有効活用を図る 情報力を強化する 28.6%

(複数回答)



運輸業



概況

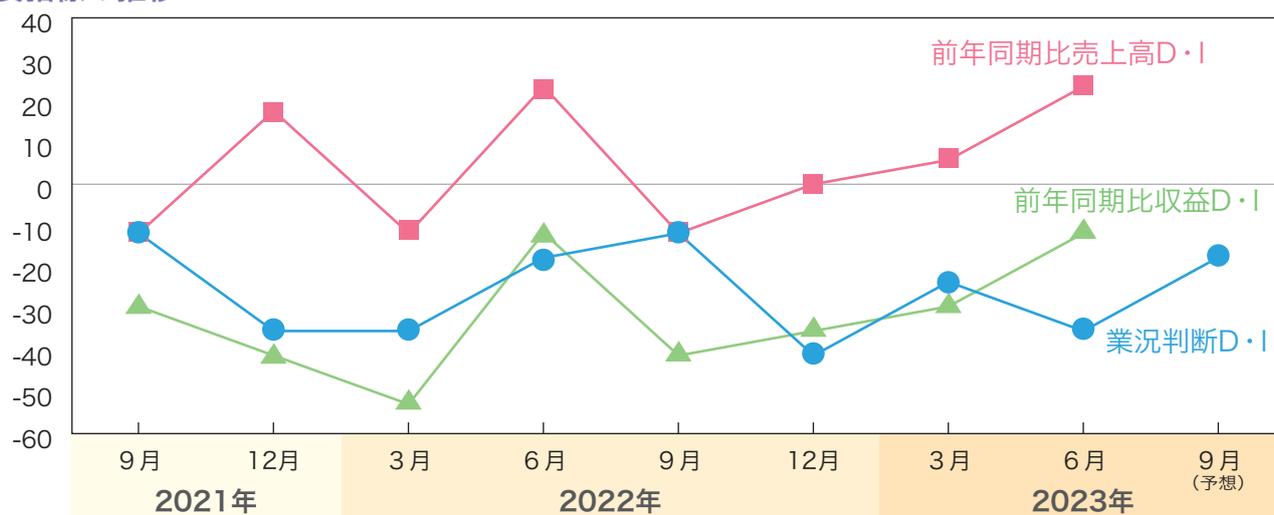
今期の業況判断指数（D・I値）は、△35.3と前期（1月～3月）から11.8ポイント悪化しました。これは貨物自動車運輸・通運業及びその他運輸・通信業で業況に変化は無かったもののハイヤー等旅客自動車業で前期よりも大きく悪化したことが要因です。売上高D・I値は販売価格の上昇により17.7ポイント、収益D・I値では17.6ポイント改善しましたが、燃料価格の高止まりから収益面はまだマイナス圏の状況です。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
業況D・I	△17.7	△23.5	△35.3	△17.6
売上高D・I	23.5	5.8	23.5	—
収益D・I	△11.7	△29.4	△11.8	—

来期の見通しについて

管内・道内の観光シーズンを迎え、来期はハイヤー・タクシー等旅客自動車業で業況が好転するとの心理要因もあり、全体でやや改善する見通しです。

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント（聞き取りを含む）の一部

- ・新型コロナウイルスの影響は未だ続いているものの、観光については戻りつつある。
- ・売上げ、収益増加も人手不足が続いている。
- ・補助金活用し、販路拡大できた。

経営上の問題点トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	燃料価格の上昇	82.4%	燃料価格の上昇	94.1%
第2位	人手不足	64.7%	人手不足	82.4%
第3位	売上の停滞・減少	35.3%	売上の停滞・減少	35.3%

(複数回答)

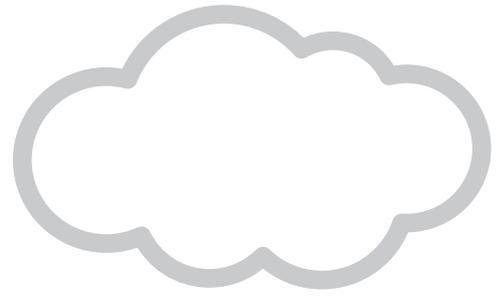
当面の重点経営施策トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	経費を節減する	70.6%	経費を節減する	76.5%
第2位	販路を広げる	47.1%	販路を広げる	64.7%
第3位	情報力を強化する	29.4%	労働条件を改善する	23.5%

(複数回答)



農業

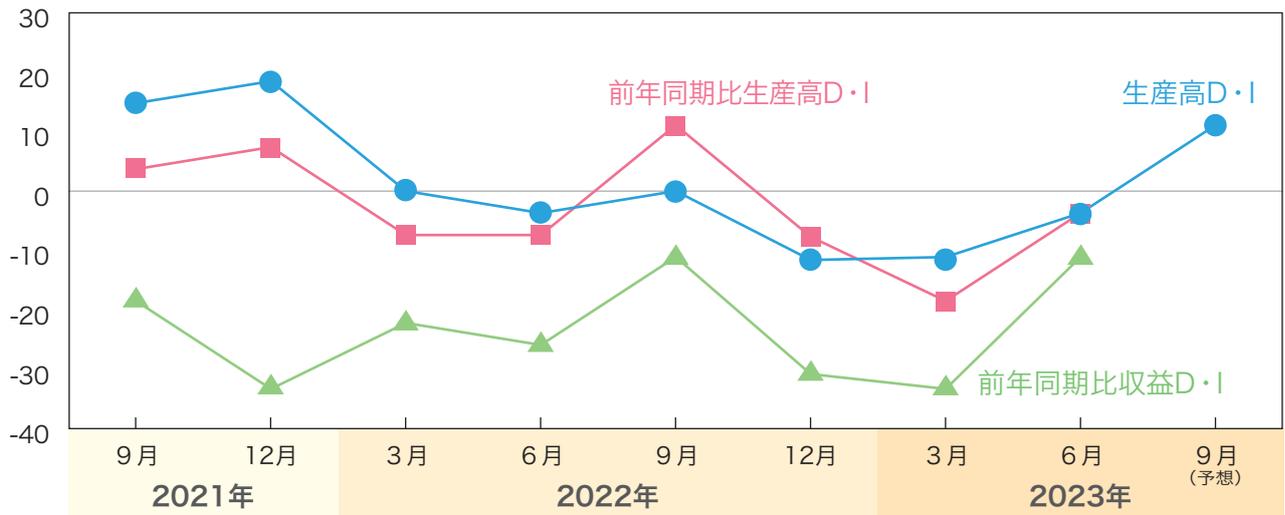


概況

生産高D・I値は、前期比7.4ポイント改善しました。6月上旬は気圧の谷の影響で雨が多かったものの、高気圧の張り出しの中で晴れた日も多く、水稻の生育は平年並み、小麦や大豆の生育はやや早く進んでいます。収益D・Iは△11.1となり前期比22.2ポイントと大きく改善しました。生産コストの増大傾向は続いており、コスト削減のため、一部では「みどりの食糧戦略」を念頭に農薬・肥料の低減、不耕作栽培によるコスト削減や作業効率の向上を試みる等、収益性の改善に努めています。販路拡大を視野に生産者と食品産業事業者との連携強化を国が検討しており、販路開拓により生産者の利幅の拡大を進める等、生産者の経営安定につながる取組は強化されつつあります。

	前年同期	前 期	今 期	見通し
生産高D・I	△3.7	△11.1	△3.7	11.1
前年同期比生産高D・I	△7.4	△18.5	△3.7	-
収益D・I	△25.9	△33.3	△11.1	-

主要指標の推移



今回の調査企業先からのコメント (聞き取りを含む) の一部

- ・農産物価格が低迷している中、諸資材の高騰により前年同月より支出は増加している。
- ・昨年から子実コーンの栽培を始めて近隣農家と協力しているが、順調である。
- ・肥料等高騰したが、自助努力により収益性は悪化していない。

経営上の問題点トップ3

	前年同期		今 期	
第1位	経費の増加	55.6%	生産資材等価格の上昇 経費の増加	63.0%
第2位	生産者価格の低迷	48.1%	人手不足	37.0%
第3位	人手不足 生産資材等価格の上昇	44.4%	機械設備の値上がり	33.3%

(複数回答)

特別調査

アフターコロナと中小企業

当金庫が今回実施致しました第148回中小企業景気動向調査と併せて（運輸業と農業を除く）172先について「アフターコロナと中小企業」についてアンケート調査した結果です。

問1. 政府が企業に対して賃上げを要請していますが、貴社では賃上げ、もしくは一時金の支給を実施しましたか。賃上げをした方は、その原資について1～4から、一時金の支給をした方は、その原資について6～9の中から選んでお答えください。賃上げや一時金の支給をしていない方は、5、0とお答えください。

		賃上げの実施					一時金支給の実施				
		1 販売価格の引上げ	2 経費の節減	3 内部留保の取り崩し	4 その他()	5 賃上げしていない	6 販売価格の引上げ	7 経費の節減	8 内部留保の取り崩し	9 その他()	0 一時金は支給していない
賃上げの実施	1 販売価格の引上げ	26.1%	7.1%	7.3%	30.0%	25.6%	0.0%	18.0%			
	2 経費の節減	17.4%	42.9%	14.5%	13.3%	18.6%	42.9%	19.2%			
	3 内部留保の取り崩し	8.7%	7.1%	3.6%	10.0%	4.7%	0.0%	5.8%			
	4 その他()	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.6%			
	5 賃上げしていない	47.8%	42.9%	74.5%	46.7%	51.2%	42.9%	56.4%			
一時金支給の実施	6 販売価格の引上げ	13.0%	0.0%	1.8%	16.7%	14.0%	0.0%	8.7%			
	7 経費の節減	4.3%	14.3%	7.3%	10.0%	9.3%	28.6%	9.3%			
	8 内部留保の取り崩し	8.7%	7.1%	1.8%	10.0%	14.0%	0.0%	7.6%			
	9 その他()	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.6%			
	0 一時金は支給していない	73.9%	78.6%	89.1%	63.3%	62.8%	57.1%	73.8%			

(複数回答)

賃上げの実施について調査の結果、全体で半数以上となる56.4%の事業者が賃上げを実施していない状況にあり、業種別に見ると、賃上げを実施していない事業者は小売業で74.5%と最も高く、次いで建設業51.2%となり、他の業種はいずれも賃上げ未実施は50%以下となりました。賃上げの原資については、全体で「経費の節減」を選択した事業者が19.2%と最も高く、特に卸売業と不動産業で42.9%となっております。又、「販売価格の引上げ」を選択した事業者が全体で18.0%となっており、特にサービス業で30.0%、製造業で26.1%となっております。内部留保の取り崩しによる賃上げ実施の事業者は全体で5.8%に留まりました。

一方、一時金の支給については全体の3/4の事業者、73.8%が支給していない状況で、賃上げ未実施の事業者の割合56.4%を17%以上も上回っております。業種別では小売業が一時金未実施89.1%で最も高く、次いで卸売業で78.6%が一時金未実施となっております。一時金を支給した事業者の原資を見ると、「販売価格の引上げ」、「経費の削減」及び「内部留保の取り崩し」のいずれもが全体で7%～10%となっております。

なお、賃上げ及び一時金を支給する理由としては、物価上昇への対応や人材の確保あるいは従業員のモチベーションの確保といった点が挙げられますが、その原資確保のために事業者の経費削減等による収益力の改善が不可欠であると言えます。

問2. 貴社では、昨今の原材料・仕入価格の上昇分や電力・エネルギー価格の上昇分相当を、販売価格に転嫁(上乗せ、値上げ)できていますか。「原材料・仕入価格」については1～4から、「電力・エネルギー価格」については5～8からそれぞれお答えください。

		原材料・仕入価格				電力・エネルギー価格			
		1 全て転嫁できている	2 ほぼ転嫁できている	3 やや転嫁できている	4 転嫁できていない	5 全て転嫁できている	6 ほぼ転嫁できている	7 やや転嫁できている	8 転嫁できていない
仕入価格・原材料	1 全て転嫁できている	4.3%	0.0%	5.5%	0.0%	7.0%	0.0%	4.1%	
	2 ほぼ転嫁できている	13.0%	28.6%	25.5%	33.3%	30.2%	0.0%	25.6%	
	3 やや転嫁できている	65.2%	50.0%	56.4%	46.7%	53.5%	57.1%	54.7%	
	4 転嫁できていない	17.4%	21.4%	12.7%	20.0%	9.3%	42.9%	15.7%	
電力・エネルギー	5 全て転嫁できている	4.3%	0.0%	1.8%	0.0%	7.0%	0.0%	2.9%	
	6 ほぼ転嫁できている	8.7%	21.4%	10.9%	26.7%	20.9%	0.0%	16.3%	
	7 やや転嫁できている	60.9%	50.0%	45.5%	40.0%	48.8%	57.1%	48.3%	
	8 転嫁できていない	26.1%	28.6%	41.8%	33.3%	23.3%	42.9%	32.6%	

原材料価格や仕入価格の上昇分を販売価格へ転嫁できているか否かについて、「やや転嫁できている」(＝一部転嫁できている)事業者が最も多く、全体の半数以上の54.7%となりました。「全て転嫁できている」は僅か4.1%ですが、これに「ほぼ転嫁できている」を合わせると29.7%となります。一方で販売価格に全く「転嫁できていない」事業者も15.7%にのぼりました。業種別に見ると不動産業では「転嫁できていない」が42.9%となり、建設業の同9.3%に比べ33%以上も差があります。

また、電力やエネルギー価格の上昇分を転嫁できているか否かについては、「やや転嫁できている」事業者が48.3%と最も高く、「すべて転嫁できている」と「ほぼ転嫁できている」を合わせても19.2%にとどまり、「転嫁できていない」が32.6%にものぼります。

電力・エネルギー価格の上昇分を販売価格に「転嫁できていない」とする事業者の割合(全体で32.6%)は、原材料・仕入価格の上昇分を販売価格に「転嫁できない」とする事業者(同15.7%)の2倍にも達し、電力・エネルギー価格の上昇幅がいかに大きく、そして企業収益を圧迫しているものと考えられます。

問3. 新型コロナウイルス感染拡大から3年が経過しましたが、貴社の現在の売上について、感染拡大前(およそ3年前)と比べ、どの程度となっていますか。次の中から1つ選んでお答えください。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 大幅増加(201%以上) | 5 やや減少(71%～89%) |
| 2 増加(151%～200%) | 6 減少(51%～70%) |
| 3 やや増加(111%～150%) | 7 大幅減少(50%以下) |
| 4 ほぼ変わらない(90%～110%) | |

		製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計
売上	1 大幅増加(201%以上)	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	2 増加(151%～200%)	4.3%	0.0%	1.8%	0.0%	4.7%	0.0%	2.3%
	3 やや増加(111%～150%)	30.4%	28.6%	12.7%	16.7%	20.9%	42.9%	20.3%
	4 ほぼ変わらない(90%～110%)	43.5%	28.6%	49.1%	53.3%	58.1%	42.9%	49.4%
	5 やや減少(71%～89%)	17.4%	42.9%	29.1%	26.7%	14.0%	14.3%	23.8%
	6 減少(51%～70%)	4.3%	0.0%	5.5%	0.0%	2.3%	0.0%	2.9%
	7 大幅減少(50%以下)	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.6%
小計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

事業者の売上について、新型コロナウイルス感染拡大前(およそ3年前)と比較して全体では「変わらない」が49.4%と最も多く、次いで「やや減少」が23.8%、「やや増加」が20.3%となっております。このことから総体では売り上げはコロナ感染拡大前にほぼ回復してきているものと考えられます。業種別に見ると、売上の「やや増加」は不動産業で42.9%、製造業で30.4%を占め、ここに来てコロナ前の売上水準に戻ってきたと考えられます。ただ、売上が「やや減少」した事業先は卸売業で42.9%、小売業では29.1%、サービス業で26.7%となり、これらの業種においてはコロナ感染拡大前までに売上が回復するにはもう少し時間がかかるものと考えられます。

問4. 貴社では、3～5年後に向けて、現在の事業をどのように展開していきたいとお考えですか。右の図も参考に、以下の1～6の中から、最も当てはまるものを1つ選んでお答えください。

- 1 現在の事業を、現状のまま継続したい
- 2 新しい販路・市場を開拓したい
- 3 新しい製品・商品・サービスを開発したい
- 4 全く異なる事業を手がけたい
- 5 事業は縮小・撤退する
- 6 特に考えていない(わからない)



	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計
1 現在の事業を、現状のまま継続したい	47.8%	57.1%	56.4%	80.0%	79.1%	85.7%	66.3%
2 新しい販路・市場を開拓したい	30.4%	14.3%	12.7%	13.3%	4.7%	0.0%	12.8%
3 新しい製品・商品・サービスを開発したい	17.4%	21.4%	16.4%	0.0%	4.7%	14.3%	11.0%
4 全く異なる事業を手がけたい	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	1.2%
5 事業は縮小・撤退する	0.0%	0.0%	7.3%	0.0%	4.7%	0.0%	3.5%
6 特に考えていない(わからない)	4.3%	7.1%	7.3%	0.0%	7.0%	0.0%	5.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

3～5年後に向けての事業展開について、「現在の事業を継続したい」事業先が最も多く、全体で66.3%であり、続いて「新しい販路・市場を開拓したい」が12.8%、「新しい製品・サービスを開発したい」が11.0%となりました。業種別に見ると、サービス業、建設業、不動産業において「現在の事業を継続し得たい」という事業者がいずれも80%前後となり、これら業種は現状維持志向が強いものと考えられます。一方で、製造業で現状維持の割合が半数以下の47.8%となり、「新たな販路・市場を開拓したい」事業者が30.4%となり、販売先の拡大に意欲的であると考えます。

また、事業を「縮小・撤退する」とした事業所も小売業で7.3%、建設業で4.7%、全体で3.5%となっております。「特に考えていない(わからない)」と回答した事業所も5.2%あり、現状を分析して今後の状況を模索しているものと考えられます。

問5. 貴社では、人材確保のための職場環境改善へ向けて実施していることはありますか。1～9の中から最大3つまで選んでお答え下さい。なお、特にないという方は0を選択ください。

- 1 賃上げ等、待遇面の改善
- 2 ワークライフバランスの充実(長時間労働是正等)
- 3 テレワーク等、IT化の推進
- 4 人事管理(評価、処遇)の適正化
- 5 非正規雇用の処遇改善
- 6 高齢者の就業促進
- 7 女性が活躍しやすい環境整備
- 8 外国人材の活用
- 9 子育て、介護との両立
- 0 特にない

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	総計
1 賃上げ等、待遇面の改善	34.8%	50.0%	29.1%	46.7%	58.1%	42.9%	42.4%
2 ワークライフバランスの充実(長時間労働是正等)	34.8%	21.4%	16.4%	13.3%	25.6%	28.6%	21.5%
3 テレワーク等、IT化の推進	4.3%	0.0%	1.8%	6.7%	4.7%	14.3%	4.1%
4 人事管理(評価、処遇)の適正化	8.7%	7.1%	10.9%	13.3%	27.9%	14.3%	15.1%
5 非正規雇用の処遇改善	8.7%	0.0%	9.1%	6.7%	2.3%	0.0%	5.8%
6 高齢者の就業促進	21.7%	21.4%	18.2%	10.0%	20.9%	14.3%	18.0%
7 女性が活躍しやすい環境整備	17.4%	7.1%	18.2%	16.7%	4.7%	57.1%	15.1%
8 外国人材の活用	4.3%	0.0%	1.8%	0.0%	7.0%	0.0%	2.9%
9 子育て、介護との両立	0.0%	7.1%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	1.2%
0 特にない	17.4%	35.7%	45.5%	40.0%	23.3%	28.6%	33.7%

(複数回答)

人材確保のための職場環境改善に向けての取組みについて、全体で「賃上げ等、待遇面の改善」が42.4%で最も多く、「ワークライフバランスの充実」が21.5%、「高齢者の就業促進」が18.0%となっております。一方で「特に実施していることはない」が33.7%と1/3を占めています。このことから現状、人手が足りないという事業所は多くはないと考えられます。特に小売業やサービス業において「特にない」と回答した事業者が40%以上ありました。

業種別に見ると、多くの業種で「賃上げ等、待遇面の改善」に取り組む事業者が多い中、製造業では「高齢者の就業促進」が21.7%、卸売業で同21.4%、建設業で「人事管理(評価、処遇)の適正化」が27.9%、不動産業においては「女性が活躍しやすい環境整備」が57.1%と他と比較して高い結果となりました。

主要経済指標

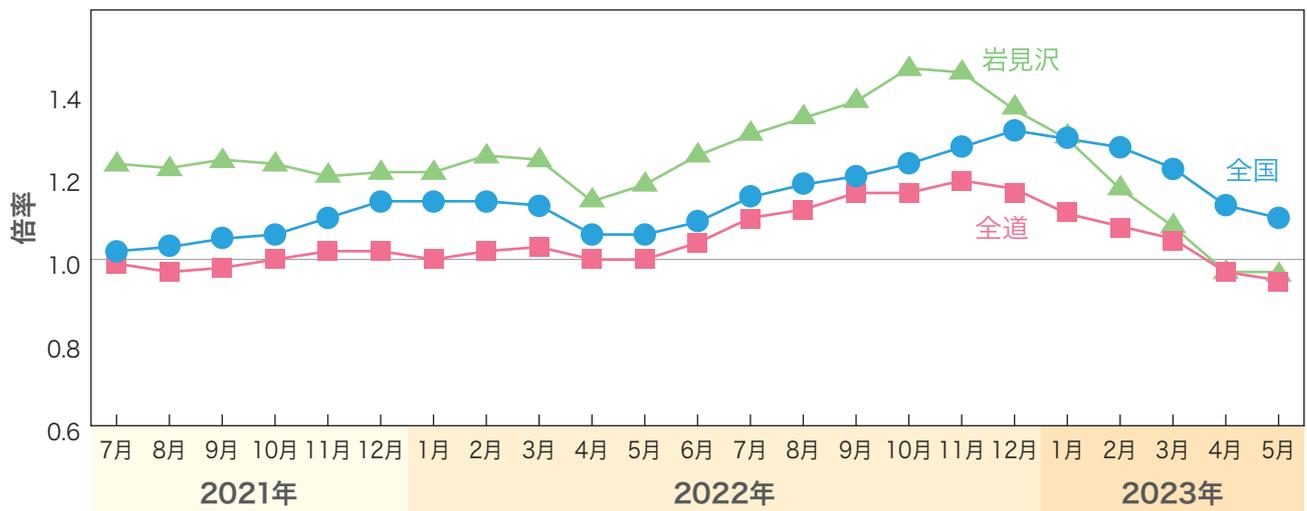
1. 空知管内・江別の人口動向

(人)

	2022年							2023年				
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
岩見沢市	77,378	77,324	77,192	77,095	77,000	76,864	76,760	76,618	76,472	76,168	76,087	76,002
美唄市	19,742	19,738	19,698	19,646	19,584	19,552	19,501	19,485	19,431	19,333	19,278	19,242
三笠市	7,853	7,841	7,818	7,800	7,755	7,742	7,722	7,708	7,672	7,626	7,614	7,600
栗山町	11,197	11,182	11,176	11,176	11,146	11,130	11,109	11,084	11,063	11,016	11,010	10,994
南幌町	7,413	7,434	7,446	7,469	7,500	7,525	7,545	7,553	7,577	7,610	7,648	7,665
由仁町	4,841	4,837	4,834	4,818	4,804	4,790	4,784	4,766	4,758	4,738	4,736	4,723
長沼町	10,234	10,246	10,237	10,220	10,194	10,177	10,161	10,144	10,131	10,099	10,100	10,099
江別市	119,379	119,391	119,386	119,334	119,319	119,252	119,174	119,119	119,075	118,775	118,871	118,824

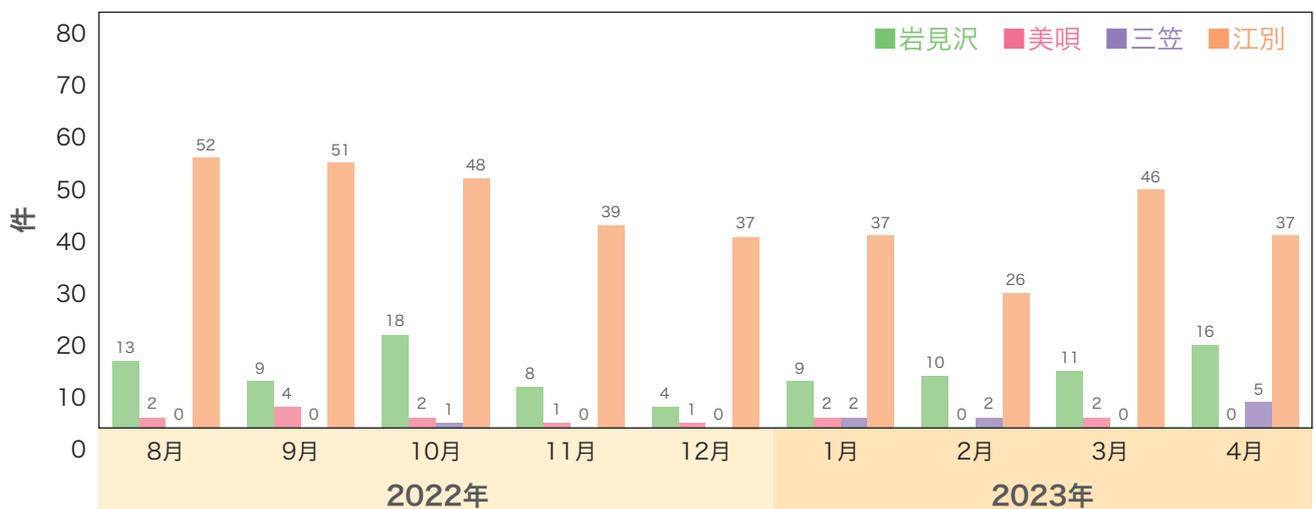
(資料：空知総合振興局)

2. 岩見沢管内の有効求人倍率



(資料：北海道労働局)

3. 建築確認申請数(4号) ※4号…木造2階建て以下の建築物

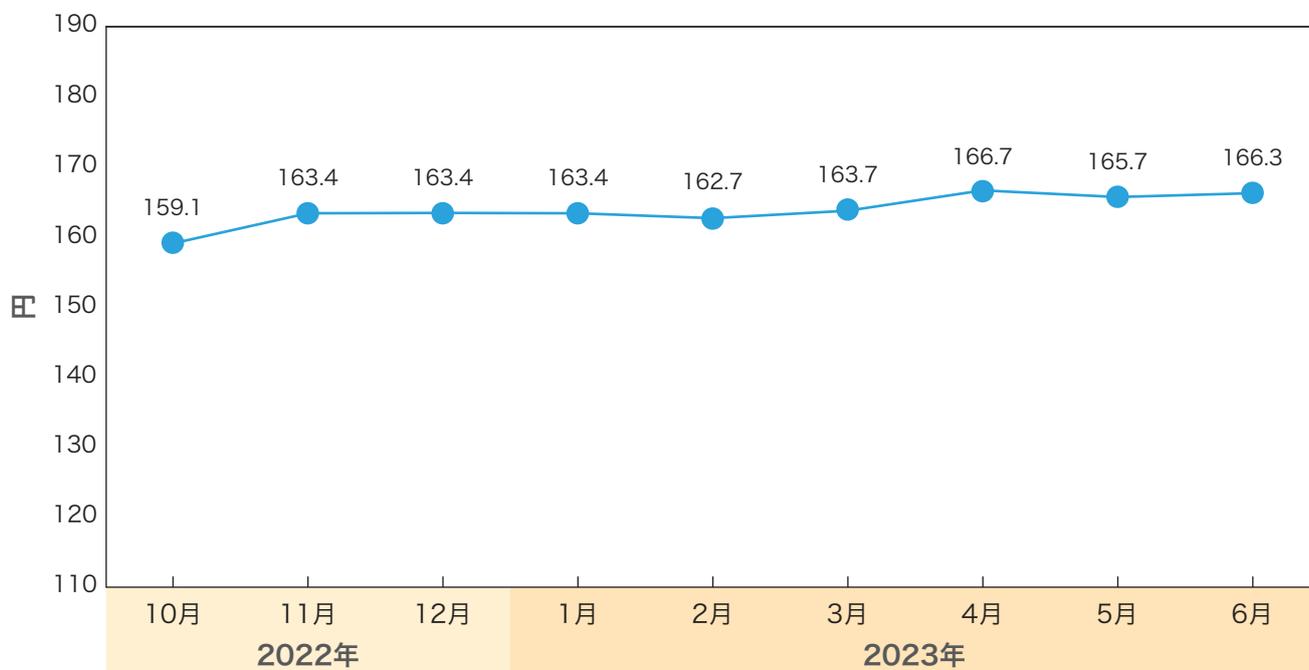


(資料：北海道建設新聞社)

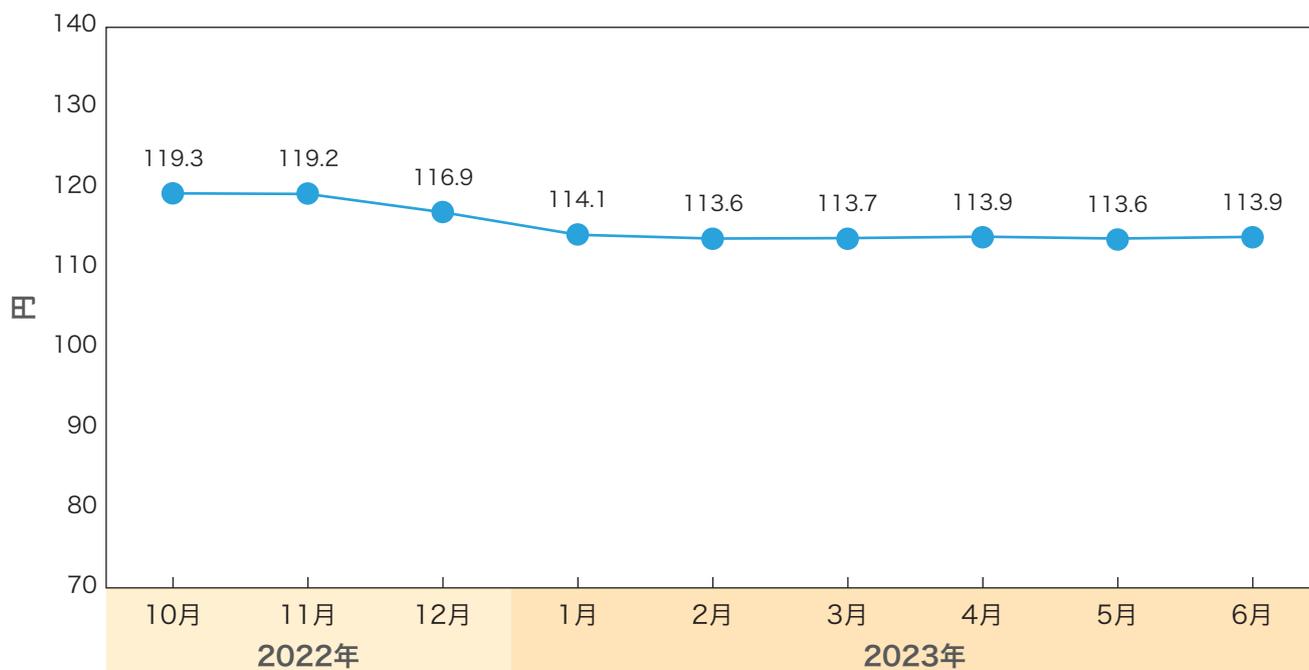
4. 管内のガソリン価格・灯油価格

(岩見沢市・美瑛市・三笠市・江別市・栗山町の平均を算出したもの)

① ガソリン



② 灯油



(資料：北海道消費者協会)

ビジネスマッチングコーナー

このコーナーでは、空知信用金庫のお取引先企業様をご紹介します。皆様の販路拡大やビジネスの連携をサポートする「誌上ビジネスマッチング」の場として、お役立てください。お問い合わせは、直接掲載企業もしくは、当金庫 地域支援部までご連絡ください。

(有) 富美興業

取引店：白石支店

札幌菊水で親しまれた銭湯「富美の湯」が「FUMINO SAUNA」として2022年9月にリニューアルオープン！誰にも会わずに、1人だけで、友達と、家族とゆっくりサウナを楽しみ、「ととのう」ための空間を実現したい！そんな想いで、男湯・女湯を解体して全6室の貸切個室サウナを作りました。

全6室のサウナ室は全てロウリュ付です。

スタンダードルームのほか、水風呂やボディシャワー付のお部屋など、人数やご要望にあわせてお選び頂けます。

人目を気にせず、足を伸ばしてゆったりとすべてがととのう、「あなたひとりだけのサウナ」。カフェ「SORA KAZE」も併設しているので、サ飯を楽しむこともできます。

家族や友達、同僚と癒やしのひとときをゆっくりお過ごしください!!

営業時間 10:00-24:30 LO 22:30 /年中無休

〒003-0813 札幌市白石区菊水上町3条2丁目52-143
担当者：日蔭 恵理 様
Tel 011-807-4949 Fax 011-815-7560
Hp <https://fumino-sauna.com/>
E-mail erikanoie1311@gmail.com



空知信用金庫の社会的取組

空知信用金庫では、地域のお客様を直接サポートする機能強化を図るため、平成29年4月、地域支援室を立ち上げ、令和3年3月より地域支援部となりました。

地域支援部では、以下のような事業や取組みを行っております。

中小企業等向け支援施策説明会 (令和5年4月26日)

本説明会は、「ものづくり補助金」、「小規模持続化補助金」「事業再構築補助金」等について、最新情報の解説・取組事例の紹介を岩見沢市と共催でオンラインにて実施しました。補助金については、新事業展開、生産性向上等中小企業者の関心事項として高い項目の一つであり、今後も関係機関と連携しながら「本業支援」の一環としてサポートを行ってまいります。



そらちしんきん INFORMATION

おかげさまで空知信用金庫は令和7年1月6日に100周年を迎えます



そらちしんきん Thank湯!



募集期間 令和5年7月3日～11月30日 募集総額 50億円

※ただし、上記期間にかかわらず、募集総額に達し次第終了させていただきます。

特賞 5本

写真の5か所の施設のうちのいずれか一つをお選びいただけます。

ペア宿泊券

洞爺湖温泉
ザ・レイクビュー
TOYA乃の風
リゾート



※部屋露天風呂付



定山溪温泉
翠山亭倶楽部

※部屋露天風呂付



小樽
朝里川
ホテル宏楽園

※部屋露天風呂付

登別温泉
望楼NOGUCHI
登別



※部屋露天風呂付

岩見沢ログホテル
メープルロッジ



※プライベートサウナ付

1等 35本

ペア宿泊券

北村温泉ホテル・ピパの湯ゆ〜りん館
三笠天然温泉太古の湯・ながめま温泉
ユンニの湯・シャトレーゼホテル栗山
なんぼろ温泉ハート&ハート
上記7か所から、一つの施設のご利用となります。
利用できる施設は当金庫より当せん者様へご案内
します。

抽せん日 令和6年3月1日(金)

※定期預金10万円を1口として、1本の抽せん権を付与します。
詳細は店頭窓口へお問合わせください。

2等 120本

食事付入浴券

北村温泉ホテル・ピパの湯ゆ〜りん館
三笠天然温泉太古の湯・ながめま温泉
ユンニの湯・シャトレーゼホテル栗山
上記のうち、一つの施設のご利用となり、
利用できる施設は当せん者様へご案内します。

3等 500本

温泉入浴剤

(入浴剤セット
いわみざわ万字ボンネ湯)



<https://www.shinkin.co.jp/sorachi/>



当金庫HP QRコード

